

○ハス以外にもいろいろな花が咲くこの時期

うっとおしい季節がやってきましたが、この時期は花もいろいろ。たくさんのお花で気分だけでもさわやかに。

○公園の夏の風物詩「大賀ハス」

●ハナモモに次ぐ公園の名物①大賀ハス。千葉市から1975年にいただいた2本の根に始まり、現在は3000㎡のハス池一面に咲き誇るまでになりました。1950年、千葉市で約二千年前の地層から発掘、発芽したため、一般には「古代ハス」と呼ばれます。大賀ハスという名は、発掘にあたった大賀一郎博士から取られたものです。



①大賀ハス

○ハスの花の寿命は4日間

●1日目はとっくり型、2日目はお椀型に満開、3日目は色があせてきて閉じても半開のまま、4日目には散ってしまいます。お昼には概ね閉じてしまうので、9時頃までに見るのがオススメです。



○ハスと一緒に楽しめるヘメロカリス



②ヘメロカリス

1つの花茎からたくさんのお花を咲かせ、長い期間楽しめる②ヘメロカリス。ニッコウキスゲやヤブカンゾウと同じ仲間です。ちなみに公方公園のヘメロカリスは、ネーブルパークから株分けして増やしたものですよ。

○スケールの大きなタイサンボク

●孔雀小屋からハス池へ向かう角にそびえ立つ④タイサンボク。樹高は20mにもなり、ハスにも負けない大きく白い花をたくさん咲かせます。花は優しい香りも特徴で、一般に「マグノリア」という名前でも香水などの香り成分として利用されています。ちなみにマグノリアとはモクレン属の学名で、園芸品種の総称としても使われます。



④タイサンボク



○夜に眠る？ネムノキ



⑤ネムノキ

●糸状の繊細で美しい花を咲かせるネムノキ。夜になると、葉が合わさって閉じる就眠運動を行うため、眠っているように見えることが名前の由来です。

庭木や街路樹としてはもちろん、塩害に強いので海岸線の防風林などにも利用されるほか、木材としての利用、花や樹皮を生薬として用いるなど、意外と人間との係わりが深い樹木でもあります。

○梅雨の定番「アジサイ」

●旧正門付近を中心に、園内の各所にて一般的な③アジサイと原種のガクアジサイが見られますよ。



③アジサイ



ガクアジサイ

○美しいニワトコの実



⑥ニワトコ

●以前にも紹介した低木の⑥ニワトコは、この時期に綺麗な赤い実を付けています。焼酎につけて果実酒にも利用されるそうです。

○ご存知ですか？コシアキトンボ

●トンボといえば、シオカラトンボやギンヤンマ、アキアカネなどがポピュラーですが、水辺の多い公方公園では、コシアキトンボがたくさん見られます。腹部が白く空いているように見えることからその名が付いていますが、地方によっては白い部分を電灯に見立てて「電気トンボ」と呼ぶそうです。視点の違いで呼び名が変わるのも面白いですね。



コシアキトンボ

●蒸し暑い時期ですが、この時期ならではの自然に触れてリフレッシュしましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索